

## 令和4年度総務経済常任委員会抽出事業における事業調査報告書

令和5年 月 日

### 1 目的と趣旨

令和2年度から新嵐山活用計画に基づく改革が進められている。

しかしながら、現状において町民の理解、共感が十分に得られているとは言い難く、また、施設活用や認知度・利用度を高めるための創意工夫や、住民に理解される財産の活用・投資が行われるよう、令和4年度についても政策課題として調査を行い、委員会としても町民との情報共有に努める必要があるとの結論に至ったものである。

### 2 政策課題

テーマ「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」

「町民にとっても自慢のできる、誇ることのできる新嵐山スカイパーク」を実現するために、新嵐山スカイパーク活用計画の進捗や予算の編成・執行などについて調査し、合わせて町が100%出資する新嵐山株式会社の経営状況並びに利用状況の把握に努め、町の貴重な財産である新嵐山スカイパークの有効活用に向けて町民との情報共有を図る。

### 3 取組事項

- ・R2提言書がどう活かされているのか確認する
- ・新嵐山スカイパーク全体的に現地調査する
- ・町民の声を聴取する

### 4 課題・政策

- ・改革の進捗状況の検証
- ・今後の公共投資に関する町民ニーズの議会として把握

### 5 実施内容

#### (1) 現地確認(9月23日～25日)

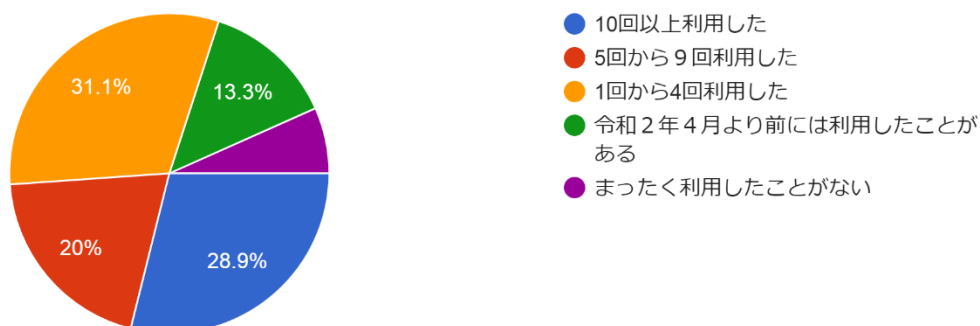
日程を設定し、利用客として新嵐山スカイパークの状況を確認した。担当課の了承を得て利用者の声を聴き、雰囲気を感じることによって、良い点、改善すべき点など、調査にあたっての委員それぞれの考え方を整理することができた。

#### (2) 新嵐山スカイパークに関するアンケート調査(10月12日～30日)

昨年同様にオンラインによるアンケート調査を実施し、45件の回答を得た。

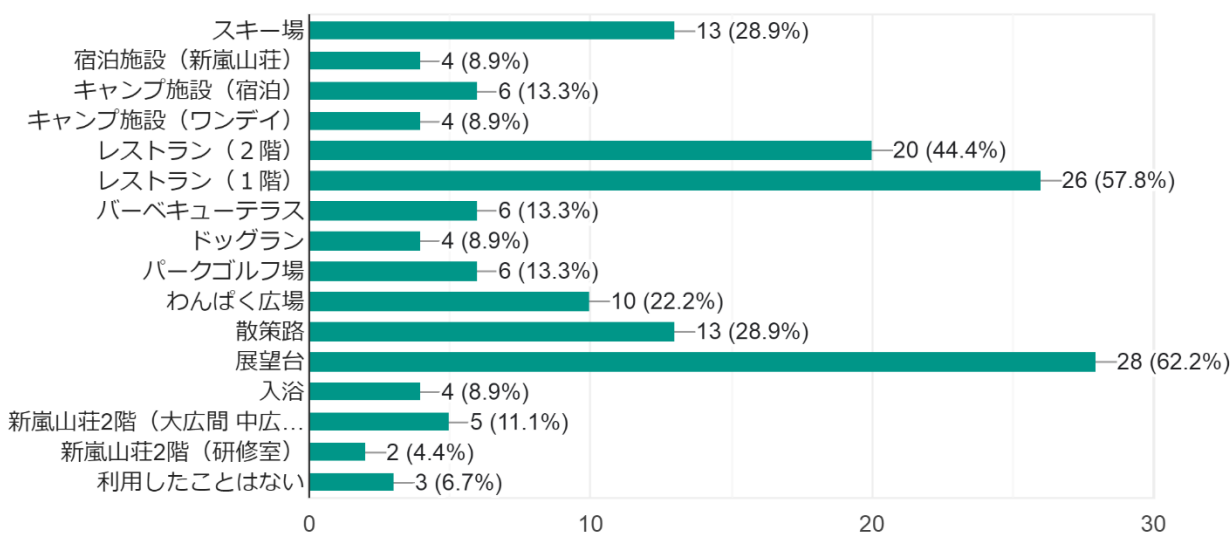
問1 令和2年4月以降に「新嵐山スカイパーク」を利用しましたか？

45件の回答



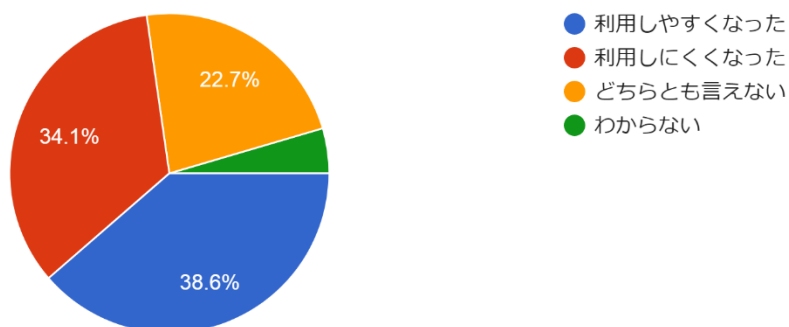
問2 利用した施設はどれですか？（複数回答可）

45件の回答



問3 令和2年度から改革を進めています。以前と比べてどのように感じますか？

44件の回答



回答者のうち、新嵐山改革の開始以降に利用した方は80%であった。

単純な比較はできないが、利用した施設を昨年との調査と比べた場合には、展望台・レストラン・スキー場の利用が引き続き多く、利用頻度が高い。また、キャンプ施設・わんぱく広場・散策路など整備を進めてきた施設の利用が増加する一方で、宿泊施設やパークゴルフ場の利用は減少している。

改革後に「利用しやすくなった」との回答は、昨年より12%以上増加し、「利用しにくくなった」も3%増加したが、わずかの差ではあるが「利用しやすくなった」との声の方が多くなり、改革が徐々に受け入れられているものと分析できる。

自由記載では、今後の展開に期待する声や、魅力を伝えるための工夫、具体的な提案など肯定的な意見よりも、町民本位の改革ではない、従前のようなメニューや価格への変更、施設活用などを求めるなど否定的な意見が多く見られた。

### (3) 芽室町老人クラブ連合会との意見交換会(11月22日)

高齢者を対象に、新嵐山荘・野外施設・その他の3つの視点での現状認識、課題解決策、あるべき姿(理想)について考え方を伺った。

意見交換を踏まえた委員会の分析として、①食事のメニューや宴会・送迎など高齢者が利用しやすいサービスの提供が不足している、②従来から愛用していた町民のニーズと「乖離」した現状が見受けられる、③パークゴルフ場の縮小とコース整備の問題、スキー場の管理運営、歩くスキーコースなどにおいて、利用者からの視点が欠如している部分が見受けられるとの3つのポイントにまとめ、年齢を問わず、すべての町民のための新嵐山スカイパークとして、現状のあり方は設置条例に適合しているのかという疑問を、参加者の皆さんが感じていることが伺えると結論付けた。

## 6 総括

令和2年9月の「新嵐山スカイパーク活用計画に係る提言書」には、「①町民のための再整備計画であること、②町が投資する事業費概算を示すこと、③施設整備の時期や投資規模の再検討を行うこと、④町民や利用者への情報提供、意見聴取を行うこと、⑤現状では利用不能な施設等のあり方を検討すること」という5つの柱があった。

この内、②の概算は既に提示されている。③についても進められているが、コロナ禍の社会情勢の中、新嵐山の経営状況は悪化しており、今後ロードマップに示されている町の施設整備の再構築や、大幅な経費削減などを含めた新嵐山運営の見直しを進め、経営の正常化を目指すことで町民に理解される財産となる。

①の視点では、町民にとって誇れる新嵐山スカイパークとして設置条例に適合させつつ、レストランの改善・キャンプ場・ドックランなどハード面の見直しで利用度を高める工夫は伺えるが、環境整備や接客など利用者目線でのソフト面も充実させ、町民など来訪者の満足度を高めることが重要である。そのためにも、④により、ニーズを捉え、新嵐山改革に対する理解を深めることもできるが、町民からなる新嵐山検討会議を立上げ、改革を進める方針を決断したことは評価できる。「町民にとっても自慢のできる新嵐山スカイパーク」を目指すためには、町民の理解と協力なくしては、成しえない。

2年間に渡り、当委員会は抽出事業として新嵐山スカイパークの活用計画の進捗状況の検証において、「子どもからお年寄りまで」多くの声を聴取しながら調査してきた。町の財産である新嵐山スカイパークに行う財政投入の内容については、次年度以降も継続した調査が必要と考える。